

< 新規受託項目のお知らせ >

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。
このたび、新たに下記項目の検査受託を開始することになりました。
取り急ぎご案内させていただきますので、ご利用の程よろしくお願
い申し上げます。

敬具

記

《実施日》

平成 30年11月21日（水）受付分より

《新規受託項目》

検査項目	IgE (RAST) (特異的シングルアレルゲン)	
	Jug r 1 (クルミ由来) (ジャグアールワン)	Ana o 3 (カシューナッツ由来) (アナオースリー)
項目コード	2768	2769
検体量	血清 0.3mL	
容器・保存方法	容器番号1 (生化学用採血管) ・ 冷蔵	
検査方法	FEIA	
基準値 (単位)	0.34以下 (U _A /mL)	
所要日数	2~4日	
検査機関	京浜予防医学研究所	
実施料 (判断料)	110点 (免疫学的検査 144点) *	
備考	* 保険収載名称: 特異的IgE半定量・定量 特異的IgE1430点を限度として算定する。	

※検査ご依頼の際は、No.3アレルギー検査依頼書の指示事項欄に「Jug r 1」
「Ana o 3」とご記入ください。

※臨床的意義につきましては、裏面をご参照ください。

《臨床的意義》

ナッツアレルギーの発症率は、食物負荷試験による診断において、0~1.4%（18歳未満）¹⁾と高くはないものの、卵や牛乳のように耐性化しにくく、生涯にわたって続くこともあります。ナッツ類のなかでも、クルミとカシューナッツは特定原材料に準ずるものとして、アレルギー表示が推奨されています。

現在、クルミアレルギー／カシューナッツアレルギーの診断に用いられている従来の f 256 クルミ特異的 IgE 検査（以下、f 256 クルミ）／ f 202 カシューナッツ特異的 IgE 検査（以下、f 202 カシューナッツ）は、臨床的感度が高い（症状がある患者さんの多くが陽性となる）一方で、臨床的特異度が十分ではありません（症状のない人でも陽性となる）。また、ナッツ類はアナフィラキシーの誘発頻度が高く、症状も重篤なため、f 256 クルミ／ f 202 カシューナッツが陽性という結果だけで食物負荷試験を実施することなく、除去指導されることが多いという課題がありました。

f 441 Jug r 1（クルミ由来）はクルミの主要コンポーネントの1つであり、f 256 クルミよりも臨床的特異度が高いため f 256 クルミと組み合わせて測定することにより、また、f 443 Ana o 3（カシューナッツ由来）はカシューナッツの主要コンポーネントの1つであり、f 202 カシューナッツよりも臨床的特異度が高いため、f 202 カシューナッツと組み合わせて測定することにより、より精度の高い診断、経口負荷試験対象者の抽出および必要最小限の原因食物の除去に寄与することができます。

●参考文献

1) McWilliam V et al. Curr Allergy Asthma Rep.2015 Sep;15(9):54.